

小学校で暗騒音はすべて70phonに近かった。とくに小学校での教室内騒音は街頭騒音よりも大きい値を示し、教師の話し声が全く聞きとれない測定点を認めた例もあった。

照明採光では、机上面や黒板面の照度が100Luxに満たない測定点を多数認めた。人工照明を行なっている場合でも、晴雨にかかわらず、100Luxに満たない測定点があった。なお、一教室の机上面の照度差が2,000Lux以上ある教室が全被調査教室の $\frac{1}{3}$ にも達した。

本調査の実施に当り、神戸大学保健委員会並びに神戸市教育委員会の示された御協力に対して感謝する。

202 運動の連続負荷が発育並びに死の攻撃に 及ぼす影響に関する動物実験的研究

(神戸大 教育学部 教育衛生) ○森 嘉代子 武田真太郎 佐守 信男

成長期に運動(筋肉労働と考えてもいい)を連続的に負荷することが死の攻撃に対して、どのような影響を与えるかということ、動物実験によって観察した。

動物はスイス系マウス Na-2 株、生後4週間の雄を用いた。これらの動物を1日に1分間8回転の円盤上を1時間走らせる群(走行距離 670m)と、1分間6回転の円盤上を20分間走らせる群(走行距離 170m)と、運動を負荷しない対照群の3群に分けた。運動負荷は隔日に行ない4週間続けた後に、3群の動物に同じような死の攻撃を行なった。

死の攻撃は、横浜医大の大川氏の報告による体力検定法(日本衛生学雑誌13巻5号所載)に準じて行なった。氏は大型バケツに水を入れ、それに動物を数匹ずつ投じて溺死するまでに要する時間を計測し、これを遊泳時間と仮称し全身機能総合的体力を判定する指針とした。私たちは、前記3群の、この遊泳時間の差の比較を試みた。

上記の運動負荷を行なった2群の体重増加率は、ともに対照群の体重増加率よりも小であった。とくに、8回転の運動負荷群がもつとも体重の増加が小であった。

死の攻撃に用いた水槽は内径 39cm、水の深さは 8cm であって水温は18°C ~ 20°C に保った。その時の外気温は 27°C であった。各群 4 匹ずつ計12匹を同時にこの水槽に投じてそれぞれの遊泳時間を測定した。遊泳時間のもっとも長かった群は対照群であり、もっとも短かかった群は、1分間8回転の運動負荷群、即ち、もっとも大きい運動負荷を4週間隔日に与えた群であった。